

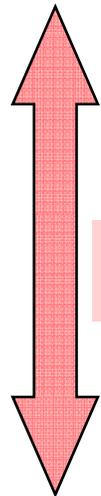
エコタウンの課題と今後の展望

課題・社会の要請

各種リサイクル法に対応した各種事業は既に出揃う

社会情勢の変化等により既存事業も競争激化

温暖化対策、新エネルギー政策



今後の展望

高付加価値化、競争力強化

→希少金属・資源等
既存事業の高度化

新エネルギー

→次世代エネルギーパーク
バイオマスエネルギー

処理困難物

→汚染土壌の浄化など

国際協力

→エコタウン
ノウハウの移転等

人材育成、VI

強み

素材を中心とした「ものづくり」の強み

エコタウン地域の中でも最大のリサイクル産業の集積

エコタウン先進地としての経験・苦勞、海外からも注目

環境産業に対する市民の理解

北九州エコ・コンビナート構想

エコ・コンビナート構想の理念

資源・エネルギー利用の「工場内最適化」から「地域最適化」へ

産業間でエネルギー・副産物(廃棄物)を相互利用
生活圏との連携



都市レベルで資源・エネルギーの消費量を極小化

期待される効果

都市レベルで資源・エネルギー循環を実現するとともに、地球温暖化対策に寄与

安価なエネルギーコスト等による産業の国際競争力の強化、産業の空洞化対策に寄与

新エネルギー産業など新たな産業を創出

臨海部の既存工業地帯の再生

想定される事業(例)

既設工業インフラによる副産物(廃棄物)の適正処理・リサイクル

・古紙リサイクル時に生じる製紙汚泥を製鉄工程の副資材として活用(製鉄所の建屋、電力、水等のユーティリティを活用)

・石膏ボードや石炭灰を製鉄工程でリサイクル

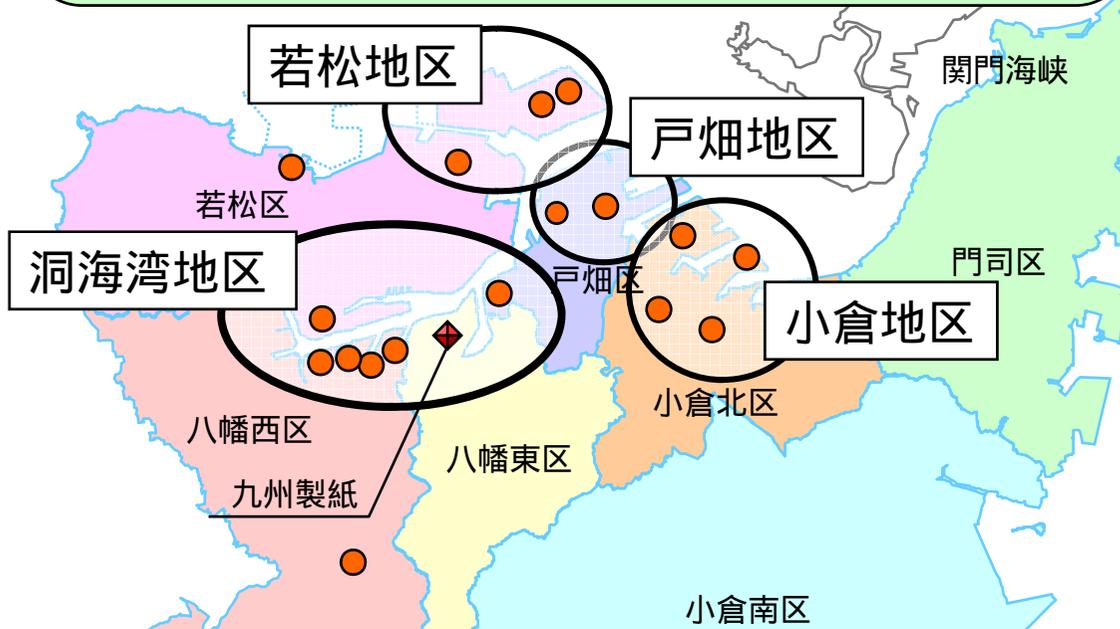
既設コークス炉に発電・熱回収装置(CDQ)を設置し、周辺企業へ電気・熱を供給

工場未利用排熱を活用した生活圏への熱供給事業

既存産業の副生水素供給ポテンシャルを活用した水素/燃料電池利活用実証事業

生ごみや廃木材等からのバイオプラスチック製造事業への工場廃熱の供給

下水道汚泥を燃料化し発電所の燃料として活用



● 検討委員会参加企業 17社

- | | | |
|--------|--------------|----------|
| ・旭硝子 | ・九州電力 | ・黒崎播磨 |
| ・西部ガス | ・触媒化成工業 | ・新日本製鐵 |
| ・新日鐵化学 | ・住友金属小倉 | ・電源開発 |
| ・東京製鐵 | ・東芝セミコンダクター社 | |
| ・東陶機器 | ・三井鉱山 | ・三井ハイテック |
| ・三菱化学 | ・三菱マテリアル | ・安川電機 |

北九州エコプレミアム産業創造事業

概要

市内での、環境負荷低減につながる技術・製品(エコプロダクツ)やサービス(エコサービス)を「**エコプレミアム**」として選定し、その拡大・浸透を図ることを通じて、市内産業界全体の環境配慮活動を促進する。

(着眼点)

省資源、省エネルギー、長寿命、易メンテナンス、リース、リユース等

これまでの成果(平成16～19年度)

選定件数	エコプロダクツ 125件	分野:生活、機械プラント、土木・建築 等
	エコサービス 23件	分野:消費者向け、事業所向け
PR方法	エコタウンセンターでの紹介、エコテクノ展、エコプロダクツ展に出展、パンフレット、冊子等作成	

北九州エコプレミアム 製品・技術

- 1 低環境負荷の消化剤
 - ・石けん系界面活性剤を使用し、泡状にして消火。通常の17分の1の使用水量。
 - ・生分解性が高く、従来の消火剤より10～200倍程度毒性を低減。
- 2 長期漏れのないパッキン不用の管継ぎ手
- 3 再生原料を使用した蛍光管
- 4 廃木材・廃プラ製建築資材
- 5 自己発電機能付き節水型自動水栓



- 6 製紙スラッジ利用の製鉄用フォーミング抑制剤
- 7 高温燃焼下での耐磨耗用長寿命化表面処理技術(溶接・溶射)
- 8 メンテが容易な脱着可能ベルトコンベア
- 9 廃エッチング液の再生技術

北九州エコプレミアム サービス

1	日本初の太陽光発電付き 賃貸型エコマンション (平成17年度「新エネ大賞」受賞)
2	在庫を発生させない1冊からできる自 費出版サービス
3	省エネ・省資源に繋がる電熱機器の 熱解析事業サービス
4	撮影画像によるトンネル等のコンクリート 構造物のひび割れ検出サービス
5	超硬切削工具回収・再生サービス



6	宅配容器のデポジットサービス ・ピザ容器(段ボール)は古紙リサイクル、 カレー、ドリアは陶器製によるリユース
7	廃材が少ない食器荷造り梱包サービス
8	業務用厨房機器の再生・販売サービス
9	中古産業機器のリユース及び 検査・分析機器のレンタルサービス

- 1 . 公害対策の経験
- 2 . 環境国際協力の歴史
- 3 . エコタウン事業とその発展
- 4 . 環境首都グランドデザイン
- 5 . 低炭素社会に向けた取り組み
- 6 . 環境人財育成
- 7 . アジアとのWIN-WIN関係へ